

# Serum chromogranin A is a useful marker for Japanese patients with pancreatic neuroendocrine tumors

肱岡, 真之

<https://doi.org/10.15017/1500564>

---

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済



氏 名： 肱岡 真之

論 文 名： Serum chromogranin A is a useful marker for Japanese patients  
with pancreatic neuroendocrine tumors

(血清クロモグラニン A は本邦における膵神経内分泌腫瘍患者に対する有用なマーカーである)

区 分： 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

クロモグラニン A (CGA) は、海外では膵神経内分泌腫瘍 (pNET) の有用なマーカーであるが、本邦における有用性はこれまで検討されておらず、その実態は不明である。このことを明らかにするため、pNET を含む様々な膵疾患患者及び健常者の血清を用いて、ELISA キットにより、CGA 値を測定した。疾患の内訳は、pNET 69 例、膵癌 50 例、慢性膵炎 50 例、自己免疫性膵炎 20 例及び健常者 112 例であった。各群での CGA をみると、pNET 群では他群と比較して有意に血清 CGA が高値であった。プロトンポンプ阻害剤 (PPI) を内服していない患者に限定すると、膵癌および慢性膵炎群では健常者群と比較して有意な違いは認めなかった。判別分析の結果、pNET と健常者を判別する最適の cut-off 値は 78.7 ng/ml であり、その際の感度は 53.6%、特異度は 78.6% であった。pNET 群において、この cut-off 値を超過するのに寄与する因子を検討したところ、単変量解析では腫瘍の種類、腫瘍のサイズ、肝転移が、多変量解析では肝転移に加え、PPI 内服が有意な因子であることが判明した。我々は、CGA が本邦においても、pNET の有用なマーカーであることを明らかにしたと同時に、他の膵疾患との鑑別にも有用であることを明らかにした。海外と同様に、本邦においても、CGA 測定が pNET 患者の診療に有用なツールとなることが期待される。